

## 第 70 回八王子市民大会中学部 決勝戦レポート

八王子サッカー協会  
技 術 委 員 会

日時：平成 28 年 11 月 20 日（日） 9:30 キックオフ

会場：戸吹スポーツ公園サッカー場

優勝：FC Branco 八王子 R 準優勝：FC Branco 八王子 B

$$\text{FC Branco 八王子 R} \quad 1 \quad \left[ \begin{array}{c} 0-0 \\ 1-0 \end{array} \right] \quad 0 \quad \text{FC Branco 八王子 B}$$

11 月 20 日（日）秋晴れの中、戸吹スポーツ公園において第 70 回市民大会中学部の決勝が行われた。カードは、FC Branco 八王子 R（以下 Branco R）対 F.C.Branco 八王子 B（以下 Branco B）という同じチーム同士の対戦となった。FC Branco 八王子の選手層が厚く、高校受験を控えたこの時期でも高いモチベーションが保たれていたことが伺えた。メンバーは Branco R が 13 名、Branco B が 11 名であった。いつも練習を共にしている同士の対戦ということもあり、アップ時からリラックスした雰囲気であった。両チーム共、体格がしっかりとしている選手が多く、システムは 4-3-3 の形で、トップ中央にはターゲットとなるような選手を配置していた。（共に 9 番）

Branco R の最初の決定的チャンスは 9 分、中央にて MF 5 番からのスルーパスに前線の 11 番が抜け出し、GK と 1 対 1 になったがシュートが打てずに DF に詰められてしまった。1 試合を通じてボールを支配しているのは Branco R であったが、Branco B も中盤に入ってくる縦パスを狙い、積極的にプレスをかけていた。両チーム共、中央でボールを回しながら両サイドの選手の裏のスペースを狙い、攻撃を組み立てようとする場面が多く見られた。特に Branco R の左サイド 14 番への展開が多くあり、タイミングよく抜け出してよく走っていたが、ボールが長かったりコースがずれるなどでチャンスが潰れてしまうことが多かった。チームとしての攻撃の狙いは徹底して行っていたので、ラストパスの精度、質が上げればさらにチャンスは増えていたであろう。24 分、Branco R はコーナーキックからのこぼれ球を 14 番が中に切り込んでシュートを打ったが、惜しくもゴールの枠を捉えることができなかった。その後も、右サイド 7 番からのクロスに対し、中央の 3 人が反応し、こぼれ球を 11 番がフリーでシュートしたがミートせず、決定機を生かせなかった。前半は両チーム共、無得点のままで終わった。

後半が始まる際も両チーム共に笑顔があり、リラックスした雰囲気の中での立ち上がりであったが、Branco B はロングボールを放り込む回数が増えてきた。ハイプレスをか

け、中盤でボールを奪えていたが、その後に蹴ってしまい、簡単に相手のボールを渡してしまう場面が目立った。また、ハイボールの競り合いに関してはDFのポジショニングが良く、しっかりと跳ね返すことができていた。セカンドボールへの反応も良かったのだが、時間が経つにつれ競り合った後のボールを Branco R に拾われることが多くなっていった。しかし1対1での当たりや、ボールの奪い合いでは随所に厳しい場面があり、高校生に交じっても引けを取らない印象を受けた。このように Branco B の方は足も止まり始め、ボールを回す場面が減って奪ったボールをロングボールで相手陣地に蹴り返す場面が増えてきたのであるが、一方の Branco R はしっかりとボールを動かし、サイドを上手く使うなどして、試合を優位に進めていった。

試合が動いたのは52分であった。Branco R、右サイドで7番が10番とのワンツで抜け出してクロスを上げ、DFがはね返したこぼれ球を中央の5番が、落ち着いて左足でのシュートをゴール右隅に決めた。先制された Branco B もロングボールから裏への抜け出そうとしていたが、オフサイドとなったり GK に阻まれるなど、あと一步のところ得点を奪えず、1-0 のまま試合終了となった。試合終了後は両チームとも笑顔で和やかな雰囲気表彰式も執り行われた。

#### 〈技術委員会からのコメント〉

最初にも述べたが、受験を控える中、練習量も選手の中でそれぞれ異なってくるため、やはり後半になると運動量が落ちる選手が目立っていた。その中で2チーム共に決勝戦に上がってきたこと、そして、FC Branco 八王子としては3連覇を達成したことは、非常に素晴らしいことである。ここ数年の間に八王子市内のジュニアユースチームと中学校部活の中で、FC Branco 八王子が頭一つ抜け出し、東京都の上位に定着してきたことの表れであろう。これまでは八王子のジュニアチームで育ってきた選手が、近隣他市の強豪チームに流出していくことが多く見られた。その結果、ウィークデイの練習後の帰宅時刻が夜10時を過ぎてしまい、学習がおろそかになってしまう者も多かったようである。今後はFC Branco 八王子を筆頭に、八王子市内のジュニアユースチームに進み、サッカーと学習の両立ができ、子ども達が人間力の高い素晴らしいサッカー選手として成長していってくれることを願っている。八王子市内のクラブチームで育った皆さんが、ユース年代に向けて良い準備をし、ますます活躍していってくれることを期待している。

さらに、FC Branco 八王子以外のクラブチーム、中学校部活の選手と指導者の皆さんには、“打倒 Branco” を合言葉に切磋琢磨して、創造的で逞しい選手として成長していくことと、将来性のある選手とチームを作っていただくことを期待している。

今回の決勝戦は、同チーム同士での対戦となったことで、メンタル面での試合への準備は難しく、リラックスし過ぎている選手も見られた。程よい緊張感と程よいリラックス感を持つ時が、最高のパフォーマンスが発揮できるそうである。体の準備に加え、心の準備もできる選手になれることを期待する。

また、W杯予選を戦っている日本代表にも言えることだが、ラストパス、シュートの精度をさらに上げて行って欲しい。この決勝戦をみても、チャンスになりうる場面は幾度となくあった。その中には、インサイドキックで丁寧に出せば問題のない場面で、アウトサイドキックで出してしまうったり、パスが浮いてしまったり、長かったり、短かったり等々、1本のパスミスでチャンスが潰れてしまう場面が多くあった。多くの選手が基本技術はしっかりしていると思われるので、非常にもったいないと感じた。普段の練習から1本のパスの精度をもっともっと突き詰めて行って欲しい。シュートに関して、決定機でパスをしてしまう、枠を外す等、精度を欠く場面が何回もあった。ボールコントロール技術を磨くと共に、どのようなシュートを選択するかの一瞬の判断のスピードにも是非ともこだわってほしい。

中盤からディフェンスの選手に関しては、ビルドアップ時に、前を向けそうな状況でも危険と判断してしまうのか、DFラインやGKへ落とし、横パスを回しながら縦パスを狙う場面が多く見られた。確かに中盤では相手の人数も増えてきてマークも厳しくなる。しかしその中でも前を向くプレーができると、攻撃の幅がさらに広がってくる。年代が上がっていくにつれ、プレッシャーはさらに強くかかってくるが、その中でいかに前を向けるかが今後の大きな課題である。是非とも普段の練習から、失敗を恐れず相手が近くにいても相手を交わしながら前を向く努力を続けて行ってほしい。一人でも多くの選手が、八王子から全国へ、そして世界へと羽ばたいていってくれることを期待している。